

# 日本のお金にはどんな歴史があるの？

## 徳川幕府の貨幣

天下を統一した徳川幕府は「全国で使える貨幣の制度」を広めるため、徳川幕府が独占して貨幣を発行できるようにしました。

小判をはじめとして各種の金貨や銀貨をつくり、それぞれを両替できるようにしました。これが全国に広がり、使われるようになりました。

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

徳川幕府の金貨、銀貨、銭貨（せんか・銅）の貨幣と両替のしくみ



## 江戸時代の大判

江戸時代には様々な大判がつけられました。

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

江戸時代の大判



慶長大判 (けいちょうおおばん・1601年) 享保大判 (きょうほうおおばん・1725年) 万延大判 (まんえんおおばん・1860年)

## 藩札の登場・愛媛の藩札

江戸時代の中頃から貨幣の不足などで、各藩が「藩札」という紙幣を発行しました。金札(きんさつ)、銀札(ぎんさつ)、銭札(ぜにさつ)などがあり、とくに銀札が多く発行されました。明治時代になるまでさまざまな藩札が発行され続けました。

江戸時代の藩札



(左) 越前福井藩銀札 (えちぜんふくいはんぎんさつ・1666年) ※残っている中で最古のものといわれている。

(中) 土佐高知藩金札 (とさこうちはんぎんさつ・1866年)

(右) 武蔵岡部藩銭札 (むさしおかべはんぜにさつ・1857年)